



「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」

学校だより

令和 5 年 7 月 3 日
東京都立羽村特別支援学校長
外山 裕介

一学期ありがとうございました

7月を迎え、夏休みまであとわずかとなりました。一学期の間、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。

学校として様々な課題が浮き彫りとなった今学期がありました。保護者の皆様からも非常に多くの御意見・御要望、御感想や御助言をいただいております。その一つ一つは違うものなのですが、一つ一つそれぞれに納得させられます。これらを参考に改善を進めてまいります。また2学期には学校評価アンケートも実施します。皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

学校運営連絡協議会が開かれました

6月13日には学校運営連絡協議会が開かれました。会の中で私から、本校教員に繰り返し伝えている指導の在り方について紹介しました。

育てたい児童・生徒像

生きる力がつくこと

≠

・その場だけ、その人に言われたときだけ何かができるようになること
(指導者がチェンジした時は成長のチャンス)

「生きる力がつくこと」とは「その人だけに言われたときだけ、できるようになること」は違います。ですから、担任が変わるときは成長の大きなチャンスになります。

育てたい児童・生徒像

学校は失敗できる場所なのに

答えを先に教えて

まちがったら

「なんで間違えたの。」

「さっきも教えたでしょ。」

学校は、失敗できる場所、答えを先に教えて、「合っています」「違います」という教え方ではなく、一緒に考える指導が大切です。

今年度の委員の構成は以下になっています。

明星大学教育学部教育学科教授	島田 様
株式会社 パナハートフル副社長	白岩 様
就労支援アドバイザー	若杉 様
青梅公共職業安定所統括職業指導官	三崎 様
友愛学園児童部施設長	三川 様
瑞穂町障害者就労支援センター長	西出 様
羽村市緑が丘三丁目自治会長	平 様
あきる野司法書士事務所司法書士	石井 様
羽村市教委 生涯学習部教育支援課長	羽村 様
西多摩保健所対策課長	村上 様
福生警察署生活安全課	山下 様
P T A 会長 渡部 様	副会長 海宝 様

(右上に続く)

様々な関係機関の方々から、それぞれのお立場に立って御意見をいただきました。その一部分について御紹介します。

- 「なんで間違えたの？」という表現は、軽度の方に対する悪影響が大きい。作業学習のなかで、間違えるのが怖くて固まったり、聞くと逆に注意されそうで不安な気持ちになったりする。返事についても「分かりましたか？」と聞かれたときに、分からなくても「はい」と答えてしまうような、誤った反応が自動的に出てしまうようなことについて、先生方は注意していかなければならない。
- 「学校は失敗できる場所」、学校で「分かりません、できません」と言えなくなった生徒が、卒業後就職した企業で「分かりません」と言えず、苦しんでいるケースがある。学校でも言えるような形を作っていけるようお願いします。
- 学校に行くたびに思うが、羽村特支の先生方は学部を問わず大変よく挨拶をしていただける。児童・生徒のロールモデルでもある先生方の姿勢として、とても良い印象と傾向だと感じている。今後もこの雰囲気や大事にして、羽村の風土として残していただけたらと思う。

「羽村特支のむかし話」

今年度は創立50周年記念式典が行われます。今回の昔ばなしは、こんなお話です。

7月 【カブトムシが校舎に張り付く朝】

開校当時は教室が余っていて、放課後の休憩時間になると空き教室でストレッチや筋トレをする教員もいたそうですが、児童・生徒の増加に伴って、グラウンドに突き出すように高等部のプレハブ校舎が建ちました。

緑が豊かな羽村、クヌギやカシの木もたくさんあります。夏になるとあちこちの林から、カブトムシやクワガタムシが夜の光に誘われて出てきて、朝には窓の網戸や校舎にくっついていました。ちょっとワクワクする夏の出来事でした。

